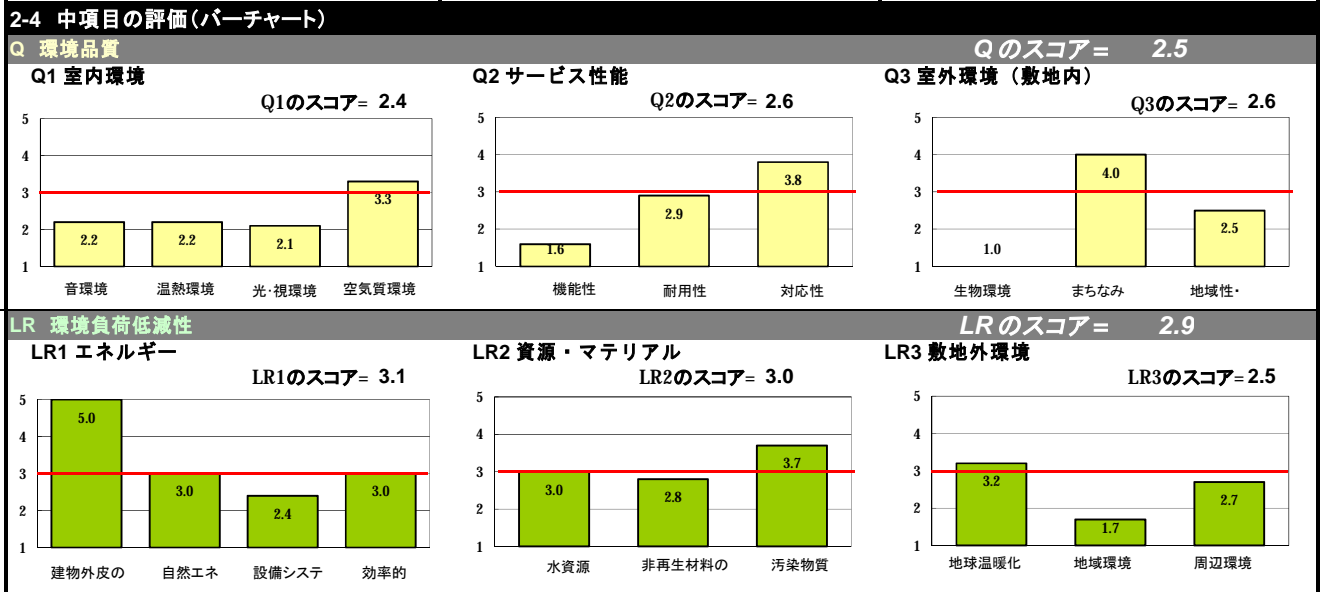
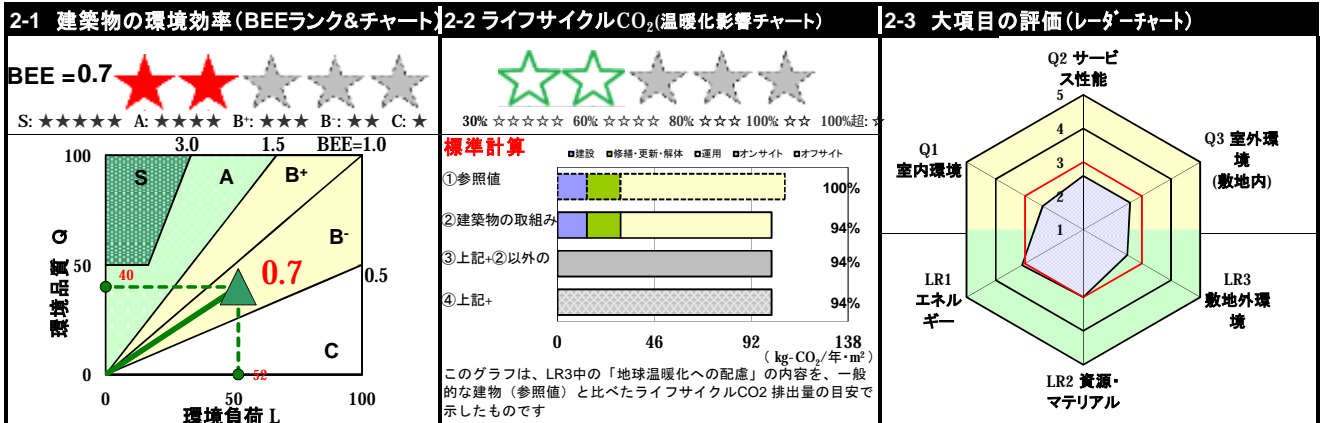


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) 茨木ビル6棟	階数	地上3F
建設地	大阪府茨木市太田東芝町	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	0人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年10月 予定	評価の実施日	2023年4月10日
敷地面積	29,258 m ²	作成者	松浦 裕己
建築面積	1,883 m ²	確認日	2023年4月10日
延床面積	5,672 m ²	確認者	松浦 裕己



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
既に既設の建物があり、その建物のサーバー室部分の不足によるサーバー室に特化した建物を計画しました。		特になし
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
機械室棟として計画し、人よりも機械に対しての環境を重視した計画としました。	機械室棟のため、搬入・更改動線がスムーズに行えるよう計画しました。	敷地周囲の法面はそのままとし、境界からの後退距離を確保している。空地を確保し道路からの圧迫感の低減等、周辺環境に配慮している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
屋上部分に断熱材を使用し、エネルギー効率を良くする計画としました。	ガス消火設備はN2消火設備を採用している。	外周の柵や門扉などにより歩行者の安全性に配慮している。また視認性・通風の良好なフェンスとすることで、快適性にも配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R5-0015

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	(仮称)茨木ビル6棟					
	建設地	大阪府茨木市太田東芝町					
	用途/区分	工場 事務所					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					B-	
①	CO2削減					3	
②	みどり・ヒート アイランド対策					2	
③	建物の断熱性					5	
④	エネルギー削減					2	
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

エネルギー消費量の報告

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.2	3
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	1.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	1.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	5.0	5
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	2.4	2
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

その他

	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		